

知っててお得! ナニコレシリーズ ~境界知能って?~

1

皆様、おはようございます。院生の津禰鹿です。私は境界知能に興味を持ち、境界知能に関する研究をおこなっています。今回皆様に境界知能をもつ方ってどんな方なのかについて知っていただきたいと思っています。では、早速「知っててお得! ナニコレシリーズ、境界知能って?」に入っていきます!

目標

境界知能がどんな対象であるかや境界知能を持つ人が経験する世界を知り、支援内容やニーズを考えることができる

アウトライン

- 1.境界知能って？
- 2.境界知能を持つ方の実際について
- 3.持っておきたい視点とは？

2

本日のアウトラインは以下の3パートで進めさせていただきます。

01

境界知能って？

ねらい

境界知能（社会背景、定義等）について
知ることができる

3

境界知能ってそもそも何？と思われる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。
このパートでは境界知能の社会背景や定義等）についてお伝えしていきます。

境界知能って？

乳幼児健診の場面

なにか気になる・・・



4

普段の乳幼児健診の場面で、なんだかちょっと気になるお子さんに出会ったことがありますか？

例えば意味のある言葉を言わず言葉の遅れが気になる、幼稚園や保育園で友達と上手く遊べないなど、発達的にみると通常よりゆっくりめのお子さん。正常域から大きく遅れているわけではないため、このまま様子を見ていいのでは？というケースです。

もしかするとその子らの中には知的障害という診断はつかないけれど、知能指数(IQ)が71～84前後で境界知能に該当するお子さんが含まれているかもしれません。

本日はこの対象の方々について学んでいきます。

境界知能って？

法定健診での健診内容

1歳6か月児健診

○ 健診内容

- ① 身体発育状況
- ② 栄養状態
- ③ 脊柱及び胸郭の疾病及び異常の有無
- ④ 皮膚の疾病の有無
- ⑤ 歯及び口腔の疾病及び異常の有無
- ⑥ 四肢運動障害の有無
- ⑦ 精神発達の状況
- ⑧ 言語障害の有無
- ⑨ 予防接種の実施状況
- ⑩ 育児上問題となる事項
- ⑪ その他の疾病及び異常の有無

○ 受診人数(受診率) 1,008,405人(96.4%)

3歳児健診

○ 健診内容

- ① 身体発育状況
- ② 栄養状態
- ③ 脊柱及び胸郭の疾病及び異常の有無
- ④ 皮膚の疾病の有無
- ⑤ 眼の疾病及び異常の有無
- ⑥ 耳、鼻及び咽頭の疾病及び異常の有無
- ⑦ 歯及び口腔の疾病及び異常の有無
- ⑧ 四肢運動障害の有無
- ⑨ 精神発達の状況
- ⑩ 言語障害の有無
- ⑪ 予防接種の実施状況
- ⑫ 育児上問題となる事項
- ⑬ その他の疾病及び異常の有無

○ 受診人数(受診率) 1,000,319人(95.1%)



出典：厚生労働省「地域保健・健康増進事業報告」（平成28年度）

5

スライドは、母子保健法で定められている1歳6か月児と3歳児の健診の内容について、厚生労働省が示したものです。

皆さんの職場でもここにあげられているような内容について、問診を行い、スクリーニングをして、カンファレンスで必要と判断されればフォローをしていくこととなりますよね。

ところが、「なにかちょっと気になる」と感じて、フォローの条件を満たすところまでには至らなかったり、

フォローになったとしても、その後に発達障害と診断がつかないことで、かわりが途切れるケース。

これまでにご経験なさったことがおありなのではないでしょうか。

境界知能って？

法定健診での健診内容

1歳6か月児健診

- 健診内容
- ① 身体発育状況
- ② 栄養状態
- ③ 脊柱及び胸郭の形状
- ④ 皮膚
- ⑤ 歯及び口腔
- ⑥ 四肢運動障害の有無
- ⑦ 精神発達の状況
- ⑧ 言語障害の有無
- ⑨ 予防接種の実施状況
- ⑩ 育児上問題となる事項
- ⑪ その他の疾病及び異常の有無

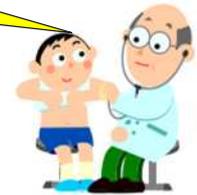
○ 受診人数(受診率) 1,008,405人(96.4%)

3歳児健診

- 健診内容
- ① 身体発育状況
- ② 栄養状態
- ③ 脊柱及び胸郭の形状
- ④ 皮膚
- ⑤ 歯及び口腔
- ⑥ 四肢運動障害の有無
- ⑦ 精神発達の状況
- ⑧ 言語障害の有無
- ⑨ 精神発達の状況
- ⑩ 言語障害の有無
- ⑪ 予防接種の実施状況
- ⑫ 育児上問題となる事項
- ⑬ その他の疾病及び異常の有無

○ 受診人数(受診率) 1,000,319人(95.1%)

スクリーニングの対象ではないため
境界知能を確認する問診項目はない



出典：厚生労働省「地域保健・健康増進事業報告」（平成28年度）

境界知能はスクリーニングの対象ではなく、また診断を要する対象でもありません。
ですので、健診の場で、その状態を確認する標準的な問診項目はそもそも設けられていない、という現状があります。

境界知能って？



境界知能は保健指導上では
注意欠如・多動症 (ADHD)
学習障害 (LD)
高機能広汎性発達障害 (HFPDD)
と同様に特別の注意をもって発見にあたらねばならない

フォローに関する法律はないため

幼児期に何か対応しないといけない対象とはなっていない

7

また、軽度の発達障害にあたる（軽度精神遅滞あるいは境界線知能の）幼児は診断確定の時期が難しいため、保健指導上では注意欠陥・多動症(ADHD)や学習障害(LD), 高機能広汎性発達障害(HFPDD)と同様に特別の注意をもって発見にあたらねばならないと、文献ではいわれています。

しかし、境界知能を含み、軽度の発達障害を持つ子どもに対するフォローについては、発達障害支援法には定められていないことから、境界知能だからといって自治体や保健師が、何か対応しなければならないということはないのが現在の状況です。

境界知能って？



宮口 幸治 (2020), 『マンガでわかる境界知能とグレーゾーンの子どもたち』, 扶桑社.



宮口 幸治, (2019), 『ケーキの切れない非行少年たち』, 新潮新書.

8

法律によるサポートも、診断を要する根拠もなく、保健師や関係職種がちょっと気になると判断して経過観察することが主な対応となる境界知能のお子さんですが、

文献では「細やかに発達の経過をサポートしていくことが重要であるという認識が少しずつ広まって」きていると書かれています。

みなさんはここにお示した本をご覧になったことや、お読みになったことがありますか？

最近、境界知能やグレーゾーンに焦点を当てた本や文献が多く見られるようになりました。

この本を書かれた宮口先生は、立命館大学の教授で、一般社団法人日本コグトレ：認知トレーニング(COG-TR)学会を創設なさっている臨床心理士の方です。このように、教育や心理の領域では、近年注目されてきている対象といえます。

境界知能って？



医療や保健分野では、まだ広く知られていない、、、
だから！

今回、境界知能がどんな対象なのかを
知ってもらいたい！



宮口 幸治 (2020), 『マンガでわかる境界知能とグレーゾーンの子どもたち』, 扶桑社.

宮口 幸治, (2019), 『ケーキの切れない非行少年たち』, 新潮新書.

しかし、医療や保健の領域ではまだあまり書籍や文献も少なく、境界知能という概念が広く知られていない状況にあります。

そこで、本日は、境界知能をもつこどもがどのような対象なのかをお伝えする機会を持つことにしました。

皆様が、これまで関わってこられたお子さんの中に境界知能の方がいたかもしれない、と思いながら聴いていただければと思います。

のちほど、境界知能の当事者の方もご紹介し、これから私たち保健師がどのような視点をもって境界知能をもつ方に関わる必要があるのかについて、一緒に考えていく機会となればと思っています。

そこで、まずは、境界知能とはどのような対象なのかについて知っていただくために、境界知能の定義や背景、文献で明らかになったことをご紹介します。

背景

アメリカ精神医学会の精神疾患の診断・統計マニュアル
(Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders : DSM) の変遷

	診断分類の有無		IQ値
DSM-I (1952年～)	○	軽度精神薄弱	70-85
DSM-II (1968年～)	○	境界精神遅滞	68-85
DSM-III (1980年～)	×	境界知能が除外	
DSM-III-R (1987年～)	×		
DSM-IV (1994年～)	×		
DSM-IV-TR (2000年～)	×		
DSM-V (2013年～)	×		診断基準から削除

10

まずは、境界知能がど今まで医療ではどのように扱われてきたのか、アメリカ精神医学会の精神疾患の診断・統計マニュアル (Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders : DSM) の変遷を用いて説明します。

DSM-5以前までは、IQ値によって知能能力障害の重症度を分類していて、DSM-IIまでは今でいう境界知能の方は、軽度精神薄弱や境界精神遅滞精神疾患として診断されていましたが、それ以降境界知能は精神疾患として除外されています。

背景

アメリカ精神医学会の精神疾患の診断・統計マニュアル
(Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders : DSM) の変遷

	診断分類の有無		IQ値
DSM-I (1952年～)	○	軽度精神薄弱	70-85
DSM-II (1968年～)	○	境界精神遅滞	68-85
DSM-III (1980年～)	×	境界知能が除外	
DSM-III-R (1987年～)	×		
DSM-IV (1994年～)	×		
DSM-IV-TR (2000年～)	×		
DSM-V (2013年～)			診断基準から削除

IQ値が71～84であれば
境界知能と定義

11

DSM-IV-TRには境界知能を障害として診断していませんが、境界知能の定義としてIQ値が71～84とされていました。

背景

アメリカ精神医学会の精神疾患の診断・統計マニュアル
(Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders : DSM) の変遷

	診断分類の有無	IQ値
DSM		
DSM-IV-TR (2000年～)	×	
DSM-V (2013年～)		診断基準から削除

障害と診断されず、公的な支援を受けることができない対象である

IQ値が71～84であれば
境界知能と定義

12

つまり、境界知能の方は、以前までは障害として診断され公的な支援を受けることができる対象でしたが、現在では障害と診断されることなく公的な支援を受けることができない対象であるといえます。

背景

II 診断基準とコード

- 1 神経発達症群/神経発達障害群
- 2 統合失調症スペクトラム障害および他の精神病性障害群
- 3 双極性障害および関連障害群
- 4 抑うつ障害群
- 5 不安症群/不安障害群
- 6 強迫症および関連症群/強迫性障害および関連障害群
- 7 心的外傷およびストレス因関連障害群
- 8 解離症群/解離性障害群
- 9 身体症状症および関連症群
- 10 食行動障害および摂食障害群
- 11 排泄症群
- 12 睡眠-覚醒障害群
- 13 性機能不全群
- 14 性別違和
- 15 秩序破壊的・衝動制御・素行症群
- 16 物質関連障害および嗜癖性障害群
- 17 神経認知障害群
- 18 パーソナリティ障害群
- 19 パラフィリア障害群
- 20 他の精神疾患群
- 21 医薬品誘発性運動症群および他の医薬品有害作用群
- 22 臨床的関与の対象となることのある他の状態

対人関係

虐待

経済

人生の危機

境界知能

高橋三郎ら, (2014), 『DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引』, 医学書院.

13

また、DSM-5にはこのように診断基準が分かれており、境界知能は、22の「臨床的関与の対象となることのある他の状態」と位置付けられています。この、「臨床的関与の対象となることのある他の状態」は、対人関係や虐待、経済、人生の危機など多くの生きていく上での課題を取り扱っています。

その人の境界線の知的機能が臨床的関与の対象となっている、またはその人の治療と予後に影響を及ぼしている場合に用いることができる



境界知能があっても、生きていく上での課題がないと判断された場合は、**医療の対象とならない場合**もある

さらに、臨床的関与の対象となることのある他の状態は、その人の境界線の知的機能が臨床的関与の対象となっている、またはその人の治療と予後に影響を及ぼしている場合に用いることができるものとされています。つまり、境界知能があっても、生きていく上での課題がないと判断された場合は、医療の対象とならない場合もあります。

背景

境界知能を持つ人々の割合は、「IQが正規分布することから理論的には13.6%となり、精神遅滞全体よりもはるかに頻度が高い」（竹下ら、1998）



出典： NHK Web特集 <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20210730/k10013164861000.html> （最終閲覧日：2022/06/20）

15

境界知能を持つ人々の日本での割合は、「IQが正規分布することから理論的には13.6%となり、精神遅滞全体よりもはるかに頻度が高い」（竹下ら、1998）とされています。図にお示ししているように約14%の1700万人の方が境界知能であると考えられ、診断されることなく支援を求めても気づかれず支援が受けにくい人々が多数存在していると考えられます。

背景

発達障害との違い



出典：『マンガでわかる 境界知能とグレーゾーンの子どもたち』（宮口幸治著／扶桑社）

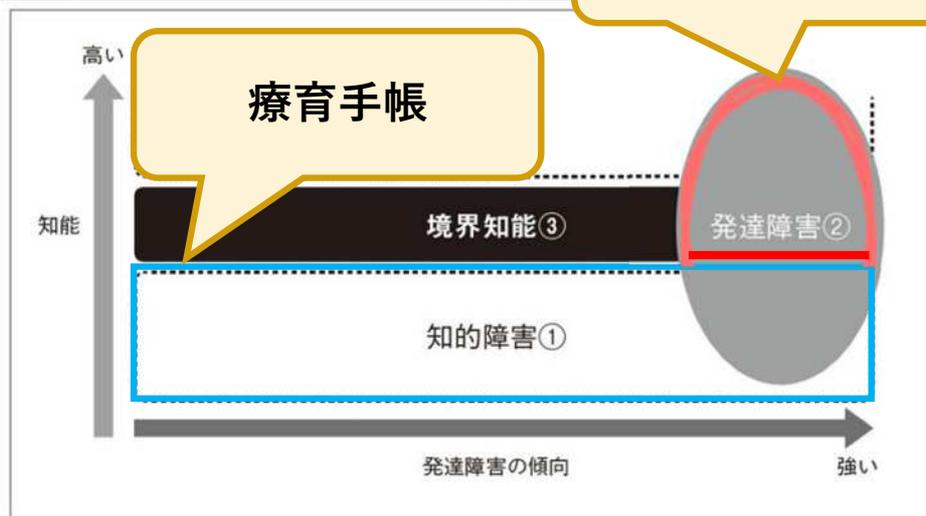
16

発達障害との違いについて宮口先生によると、この図のように、発達障害の子どもには、知能が正常域にある子もいれば、境界知能の子も知的障害の子もおり、逆に知能が平均より高い子もいる、とされています。

出典：『マンガでわかる 境界知能とグレーゾーンの子どもたち』（宮口幸治著／扶桑社）
<https://business.nikkei.com/atcl/gen/19/00369/052700021/?SS=imgview&FD=-1039926986>（最終閲覧日：2022/06/20）

背景

発達障害との違い



出典：『マンガでわかる 境界知能とグレーゾーンの子どもたち』（宮口幸治著／扶桑社）

17

また、この図を用いて障害者手帳が取得できる範囲をお示しすると、このようになります。知的障害（①）と診断された子どもは、療育手帳がとれば福祉サービスを受けることができ、発達障害（②）で精神障害者保健福祉手帳をとることもできます。

メモ

出典：『マンガでわかる 境界知能とグレーゾーンの子どもたち』（宮口幸治著／扶桑社）

<https://business.nikkei.com/atcl/gen/19/00369/052700021/?SS=imgview&FD=-1039926986>（最終閲覧日：2022/06/20）

背景

発達障害との違い



出典：『マンガでわかる 境界知能とグレーゾーンの子どもたち』（宮口幸治著／扶桑社）

18

そこで問題なのが、発達障害ではない境界知能の子どもたち（③）です。境界知能（③）では、手帳を取ることができず、知的障害の子が受けられる支援と発達障害の子が受けられる支援の両方から漏れてしまいます。

しかし、社会的な生活を送る上での困りごとは、知的な障害から生じる部分がほとんどです。知的な能力が低いと、それだけで生きにくさが増えてしまいます。そのため、知的障害の程度を知ることは重要だと宮口先生は仰っておられます。

出典：『マンガでわかる 境界知能とグレーゾーンの子どもたち』（宮口幸治著／扶桑社）

<https://business.nikkei.com/atcl/gen/19/00369/052700021/?SS=imgview&FD=-1039926986>（最終閲覧日：2022/06/20）

背景

知的発達の捉え方



松田修. (2013) 日本版WISC-IVの理解と活用. 教育心理学年報 52 巻 p. 238-243 を基に作成

19

先ほどから述べていた知能指数、いわゆるIQには様々な能力を総合したものになります。これらは一例となりますが、視覚・聴覚から情報を処理する力や言語の能力、情報処理の能力など様々な能力を総合した結果、IQが出されます。このような能力のことは「知的構造」と呼ばれます。

メモ

松田修. (2013) 日本版WISC-IVの理解と活用. 教育心理学年報 52 巻 p. 238-243
https://www.jstage.jst.go.jp/article/arepj/52/0/52_238/_article/-char/ja/

背景

知的発達の捉え方

知能指数 (IQ)

知覚推理

言語理解

同じ境界域のIQを持っている子どもでも、
得意なこと苦手なことは違う可能性がある！

聴覚情報から必要な情報を選別し
保持しながら処理する力

情報処理のスピード
筆記能力

など、

松田修. (2013) 日本版WISC-IVの理解と活用. 教育心理学年報 52 巻 p. 238-243 を基に作成

20

ということは、同じ境界域のIQを持っている子どもでも、得意なこと苦手なことは違う可能性があるということが考えられます。そのバラツキがあると、本人ももどかしい思いをしたりや特定の活動や場面に強い苦手意識を持ってしまったり、集団の中で情緒的に不安定な状態になっていたりする可能性があると考えられます。

メモ

松田修. (2013) 日本版WISC-IVの理解と活用. 教育心理学年報 52 巻 p. 238-243
https://www.jstage.jst.go.jp/article/arepj/52/0/52_238/_article/-char/ja/

背景

- Minna Peltopuro らの研究によると、境界知能を持つ多くの人々がライフコースで大きな困難に直面していることや認識されないことが多く、サポートが提供されないこと、境界知能を持つ人々が直面している日常的な問題が明らかにもかかわらず、この問題はほとんど研究されていないと述べられている (Peltopuro M et al., 2014)。
- 境界知能は「**特定の公衆衛生、教育および法的注意を必要とする健康メタ状態**」 (Luis Salvador-Carulla et al, 2013) と定義
- 保健師は「公衆衛生を担う人材の中でも重要な役割を担う職種として大いに期待」 (金藤ら, 2011) され、また「公衆衛生看護を実践する主な看護職」 (麻原ら, 2014) である

保健師は境界知能をもつ人々を把握し、関わる必要がある職種のの一つ

21

先行研究によると、境界知能を持つ多くの人々がライフコースで大きな困難に直面していることや認識されないことが多く、サポートが提供されないこと、境界知能を持つ人々が直面している日常的な問題が明らかにもかかわらず、この問題はほとんど研究されていないと述べられています。

また、境界知能は「特定の公衆衛生、教育および法的注意を必要とする健康メタ状態」と定義されています。つまり、教育だけでなく、公衆衛生など社会的な面からも注意して見守っていく必要がある対象だと考えられます。

さらに、保健師は「公衆衛生を担う人材の中でも重要な役割を担う職種として大いに期待」され、「公衆衛生看護を実践する主な看護職」であるといわれています。そのため、保健師は境界知能をもつ人々を把握し、必要時関わる必要がある職種のの一つと考えることができます。

文献レビュー

境界知能を持つ人は“関わる必要がある対象“ということをお伝えしてきましたが、現時点でどのような境界知能に関する研究が行われているのでしょうか？



そこで！！

境界知能を持つこどもの対象理解をするために
海外の文献レビューを行いました



22

境界知能を持つ人は“関わる必要がある対象“ということをお伝えしてきましたが、現時点でどのような境界知能に関する研究が行われているのでしょうか？そこで、境界知能を持つこどもの対象理解をするために海外の文献レビューを行いました。海外にしたのは、日本では境界知能に焦点を当てた研究が少なく、レビューできなかったためです。

文献レビュー：文献採択

- データベース：PubMed
- 検索日：2021年08月15日
- 検索式：((Borderline Intellectual Functioning[Title]) OR (Borderline Intelligence[Title])) OR (Borderline IQ[Title])) OR (Borderline Mental Retardation[Title]) AND (public health)
絞り込み：過去10年以内

→34件検索

23

PubMedを使用し、スライドにお示ししている検索式で文献検索したところ、34件の文献が得られました。

文献レビュー：文献採択

採択基準

- 「境界知能に焦点が当てられていること」
- 「境界知能に関する知見が述べられていること」
- 「治療効果など医学的介入ではないこと」
- 「対象者の年齢がわかること」

PubMed (n=34)

1次スクリーニング：タイトル、抄録の精読 (n=34)

採択基準に合わない文献を除外 (n=4)
取得不可能 (n=1)

2次スクリーニング：本文の精読 (n=29)

採択基準に合わない文献を除外 (n=4)

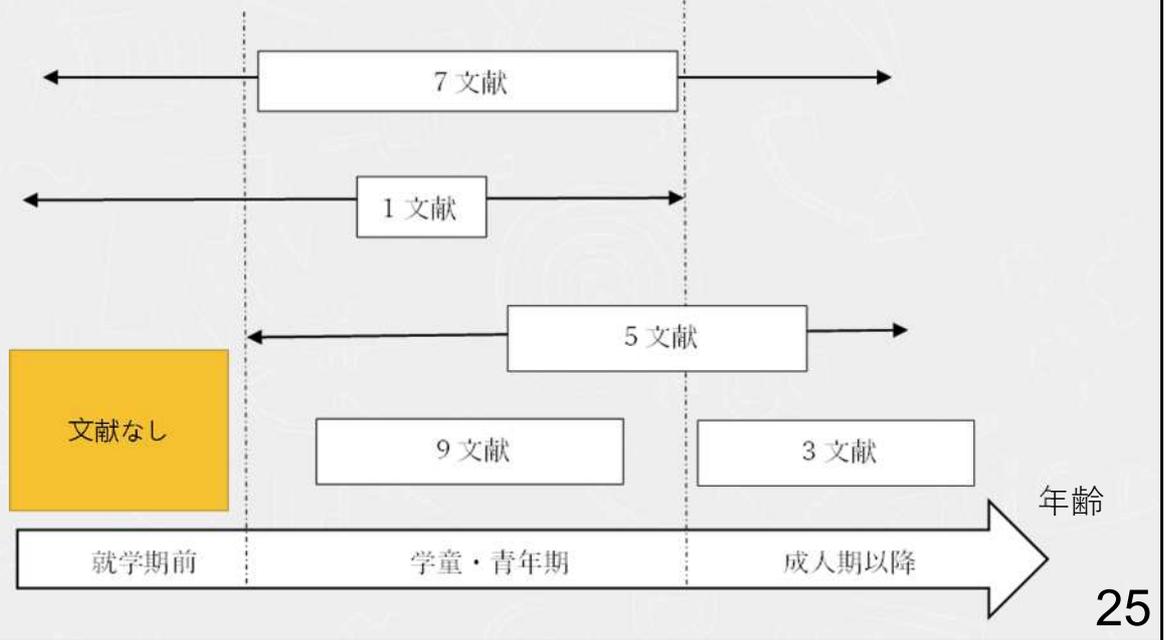
採択された文献 (n=25)

24

その後、4つの採択基準を使用してスクリーニングを2回行い、最終的に25の文献を採用しました。採択基準は「境界知能に焦点が当てられていること」「境界知能に関する知見が述べられていること」「治療効果など医学的介入ではないこと」「対象者の年齢がわかること」です。

文献レビュー

結果



これは採択した文献を対象年代ごとにプロットしたものです。就学期前に焦点を当てた研究はないことがお分かりいただけると思います。

【親子関係】

【境界知能を取り巻く養育環境】

【境界知能による発達への影響】

境界知能をもつ子供の対象理解について述べられている部分に関して大きくこの3つのカテゴリーが生成されました。これらのカテゴリーについて次のスライドからレビューした文献の中から抜粋して紹介していきます。

文献レビュー：結果抜粋

番号	筆頭著者	タイトル
1	Fenning RM, 2014	Parent-child interaction over time in families of young children with borderline intellectual functioning
2	Água Dias AB, 2019	Memory and linguistic/executive functions of children with borderline intellectual functioning
3	Szumski G, 2018	Predictors of success and quality of life in people with borderline intelligence: The special school label, personal and social resources
4	Hassiotis A, 2019	Association of Borderline Intellectual Functioning and Adverse Childhood Experience with adult psychiatric morbidity. Findings from a British birth cohort
5	Wieland J, 2019	Focus on borderline intellectual functioning in mental health care
6	Vervoort-Schel J, 2021	Prevalence of and relationship between adverse childhood experiences and family context risk factors among children with intellectual disabilities and borderline intellectual functioning

27

これらが今回結果として紹介する文献の一覧です。

【親子関係】

- 精神遅滞のある子供の親は、**ポジティブで敏感な子育てのスコアや関与が少ない**ことを示している。（文献1）
- 境界IQを持つ子供は、就学前の期間の終わりまでに進行中であるように見える**有害な家族プロセスのリスクがある可能性がある**ことを示唆している。（文献1）
- 5歳でIQが境界線にある子供の母親の間で観察された**積極的な関与の著しい欠如**は、学校への移行に関連する困難に起因する可能性がある。（文献1）

親子の関係のカテゴリーでは、積極的でない子育てや子どもへの関わり、家族プロセスのリスクがあることが述べられていました。

【境界知能を取り巻く養育環境】

- 精神遅滞の「**不可視性**」がこれに影響を及ぼし、親は遅滞が何を意味するのか、そして遅滞の経験を持つ子供たちがどのような問題を抱えているのかを十分に理解していない。（文献5）
- 平均的な知能を持つ仲間よりも**貧しい社会経済的条件下**で成長する可能性がある。（文献5）
- 同級生よりも**ACE（逆境的小児期体験）**にさらされる可能性が非常に高く境界知能の子供がID（知的障害）の子供より平均してより多くのACEを経験している。（文献6）
- **SES（社会経済的状況）が低い**親は、SESが高い親よりも障害児の養育に関与しない傾向がある。（文献3）

境界知能を取り巻く養育環境では、境界知能の不可視性や境界知能をもつ子供の親が境界知能であることが何を意味し、子どもがどのような困難を抱えているのかを理解できていないことが述べられていました。また、境界知能を示す子どもたちは、平均的な知能をもつ子供よりも貧しい社会経済的条件下で成長する可能性や、ACE（逆境的小児期体験）にさらされる可能性があり、境界知能の子供がID（知的障害）の子供より平均してより多くのACEを経験していると述べられています。さらに、SES（社会経済的状況）も養育に関係するといわれています。

【境界知能による発達への影響】

- **社会的スキルが低く**、一人で遊ぶことが多く、自信がなく、学校での問題が多く、**心理的問題のリスク**が高くなる。また、平均的な知能を持つ仲間より**身体的問題のリスク**が高い。（文献5）
- 成人期の障害は小児期の発達過程の混乱に起因することが多いと主張されている。（文献4）
- **短期記憶の不足**があり、複雑な情報が聴覚的に提示されると不利になる可能性がある。（文献2）
- 境界IQの子供は、5歳で観察された困難な行動のレベルで他の子供と異ならなかったが、通常発達している子供と比較して、時間の経過とともに**困難な行動の有意な増加**を示した。（文献1）

30

境界知能による発達への影響では社会的スキル、心理的問題、身体的問題のリスクが高くなること、成人期の障害は小児期の発達過程の混乱に起因することが多いと述べられています。また、短期記憶の不足があり、複雑な情報が聴覚的に提示されると不利になる可能性があることとされ、境界知能の子供は、5歳時点では他の子供と異ならなかったが、通常発達している子供と比較して、時間の経過とともに困難な行動の有意に大きな増加を示しているといわれています。

パート1の要点

公的な支援から
漏れやすい対象

知的発達には「知的構造」
という様々な能力で構成さ
れており、個人差がある

成長していく過程で様々な
困難にあっている可能性が
高い対象



31

ここまでお伝えしてきたことから境界知能という対象についてまとめると、境界知能は人口の約14%いると推測されているが、公的な支援から漏れやすい対象であること

知的発達には言語理解、ワーキングメモリ、処理速度などの「知的構造」という様々な能力で構成されており、生活の中で得意/不得意のばらつきがあり、本人も不安定な状態になっていたりする対象であること

境界知能は【親子関係】【境界知能を取り巻く養育環境】【境界知能による発達への影響】など成長していく過程で様々な困難にあっている可能性が高い対象であることが分かりました。

パート1の要点

公的な支援から
混れやすい対象

知的発達には「知的構造」

では実際に境界知能の方は生活の中で
どのような経験をされているのでしょうか？

32

ここまでで境界知能を持つ方がどのような対象なのかについて、知っていただけましたか？

では、ここからは実際に境界知能を持つ方のお話をご紹介します。

03

持っておきたい視点とは？

ねらい

境界知能の可能性のある対象に関わる際に
持っておきたい視点を考えることができる

33

パート1，2で境界知能の方について対象理解はできましたでしょうか？ここからは、今後、境界知能の可能性のある対象に関わる際に持っておきたい視点についてみなさまと一緒に考えていきたいと思えます。

持っておきたい視点とは？

- 就学期前の境界知能の子どもは**親子の関係性や育児環境・ACE**などから影響を与えられる
- 「境界知能」は**見えにくく、親の理解が不足**する
必要時の関わりが見過ごされ、その後の成長に困難が生じる恐れ

就学期前にアセスメントを行い適切な関わりを行うことは、今後の本人や家族の成長にも良い影響を与えられると考えられる。

34

就学期前の境界知能の子どもは親子の関係性や育児環境・ACEなどから影響を与えられていることが述べられています。

また、「境界知能」の状態が見えにくいこと、親の理解が不足していることが述べられており、それらは必要時の関わりが見過ごされる要因の一つとなると考えられます。必要時に関われないことでその後の成長に困難を生じるリスクが高くなります。

そのため、就学期前にアセスメントを行い適切な関わりを行うことは、今後の本人や家族の成長にも良い影響を与えられると考えられます。

持っておきたい視点とは？

- 保育園・幼稚園・小学校の先生と**共通認識をもつ**
境界児は、普通の保育園や幼稚園に通っていることが多い
→境界児の特徴を共有し、関わりの方向性を一緒に検討していく
- **集団場面の行動も観察する**
心理検査や面接など、枠組みの明確な場面では問題がみえにくい
→行動観察で全体像が把握できる

自由遊び、課題活動、またそれらの活動の切り替わりの場面における指示理解の状況や感情のコントロール、他者とのコミュニケーション能力

前川喜平、落合幸勝（2010.9）『乳幼児健診における境界児－どう診てどう対応するか』 診断と治療社. P125から引用

35

また、『乳幼児健診における境界児－どう診てどう対応するか』の書籍で紹介されている、「境界児の知的発達への促し方」の節では、境界児は普通の保育園や幼稚園に通っていることが多く、境界児の持つ特徴について保育園、幼稚園、学校の先生方と共通認識を持ち、支援の方向性を一緒に検討できる体制づくりがとても大切であり、また境界児のなかには、心理検査や面接といった枠組みの明確な場面では問題がみえにくいという子どももおり、集団場面の行動観察をあわせて初めて全体像を把握できることが多いです。そのため、できるだけ現場を訪問して、幼児であれば、自由遊び、課題活動、またそれらの活動の切り替わりの場面における指示理解の状況や感情のコントロール、他者とのコミュニケーション能力について観察させてもらうようにするといわれています。

持っておきたい視点とは？

- 境界児は周囲の動きから遅れをとることが多く、自尊心が傷つきやすい
- 小さな**成功体験**を積みませ、自信と意欲を引き出す
- **認知処理の特性**を見極め、子どもの「**ストレングス**」を把握
→両方にアプローチを行う

前川喜平、落合幸勝（2010.9）『乳幼児健診における境界児－どう診てどう対応するか』 診断と治療社. P125から引用

36

境界児は周囲の動きから遅れをとることが多く、自尊心が傷つきやすいといわれています。境界児の発達支援は、子どもの気持ちに寄り添いながら小さな成功体験を積みませ、自信と意欲を引き出していく支援が必要です。また、子ども本人の困り感の背景にある認知処理の特性を見極めるとともに、得意なことや好きなことなど子どもの「ストレングス」を把握して、その両方にアプローチしていくことが大切であるといわれています。

参考文献

- Peltopuro M, Ahonen T, Kaartinen J, Seppälä H, Närhi V. (2014) Borderline intellectual functioning: a systematic literature review. INTELLECTUAL AND DEVELOPMENTAL DISABILITIES, 52(6), 419-443.
- 小枝達也. (2007) 軽度発達障害児について. 小児保健研究, 66(6), 733~738.
- 小枝達也. (2006) 軽度発達障害児に対する気づきと支援のマニュアル. 厚生労働科学研究費補助金 子ども家庭総合研究事業 「軽度発達障害児の早期発見と対応システムおよびそのマニュアル開発に関する研究」平成18年度研究報告書.
- Luis Salvador-Carulla, Juan Carlos García-Gutiérrez, Mencia Ruiz Gutiérrez-Colosía, Josep Artigas-Pallarès, José García Ibáñez, Joan González Pérez, Margarida Nadal Pla, Francisco Aguilera Inés, Sofia Isus, Josep Maria Cereza, Miriam Poole, Guillermo Portero Lazcano, Patricio Monzón, Marta Leiva, Mara Parellada, Katia García Nonell, Andreu Martínezi Hernández, Eugenia Rigau, Rafael Martínez-Leal. (2013) Borderline intellectual functioning : Consensus and good practice guidelines. Revista de Psiquiatria y Salud Mental, 6, 109-120.
- 麻原きよみ. 公衆衛生看護学テキスト 第1巻 公衆衛生看護学原論, 医歯薬出版株式会社, 2014, p172.
- 金藤亜希子, 宮腰由紀子, 小野ミツ. (2011) 連携する他職種が捉える保健師像 — 保健師教育の方向性を探る —. 日本看護研究学会雑誌, 34(2), p109-118.
- 前川喜平、落合幸勝 (2010.9) 『乳幼児健診における境界児—どう診てどう対応するか』 診断と治療社.

37

以下、引用文献です。ご清聴ありがとうございました

文献レビュー (抜粋) 6文献

- 1 Fenning RM, Baker JK, Baker BL, Crnic KA. (2014) Parent-child interaction over time in families of young children with borderline intellectual functioning. *J Fam Psychol*, 28(3), 326-35.
- 2 Água Dias AB, Albuquerque CP, Simões MR. (2019) Memory and linguistic/executive functions of children with borderline intellectual functioning. *Appl Neuropsychol Child*, 8(1), 76-87.
- 3 Szumski G, Firkowska-Mankiewicz A, Lebuda I, Karwowski M. (2018) Predictors of success and quality of life in people with borderline intelligence: The special school label, personal and social resources. *J Appl Res Intellect Disabil*, 31(6), 1021-1031.
- 4 Hassiotis A, Brown E, Harris J, Helm D, Munir K, Salvador-Carulla L, Bertelli M, Baghdadli A, Wieland J, Novell-Alsina R, Cid J, Vergés L, Martínez-Leal R, Mutluer T, Ismayilov F, Emerson E. (2019) Association of Borderline Intellectual Functioning and Adverse Childhood Experience with adult psychiatric morbidity. Findings from a British birth cohort. *BMC Psychiatry*, 19(1), 387.
- 5 Wieland J. (2019) [Focus on borderline intellectual functioning in mental health care]. *Tijdschr Psychiatr*, 61(11), 761-765.
- 6 Vervoort-Schel J, Mercera G, Wissink I, Van der Helm P, Lindauer R, Moonen X. (2021) Prevalence of and relationship between adverse childhood experiences and family context risk factors among children with intellectual disabilities and borderline intellectual functioning. *Res Dev Disabil*, 113, 103935.

38

以下、引用文献です。ご清聴ありがとうございました